

令和7年度 八王子市立由井第三小学校 学校経営報告

八王子市立由井第三小学校

校長 筒井 泰行

令和7年度の取組目標(重点)と方策について

(1) 豊かな心の醸成

- さわやかな挨拶や言葉遣いを基調として自己肯定感の醸成を図る。
- 自他を尊重する精神を養い、生命を大切にす言動がとれるようにする。
- いじめや暴力は絶対に許さないという強い信念を醸成する。
- 「夢大地」を活用した教育の充実と、郷土愛を醸成する。

【主な取組】

- ・ 挨拶の定着、適切な言葉づかいや話し方、相手を尊重した呼名などの習慣化
- ・ 「八王子市いのちの大切さを共に考える日」の実践
- ・ いじめ防止のための授業(1回/学期)の実施
- ・ 「こころの日」(月1回)、道徳授業地区公開講座の実施
- ・ いじめ対応のための時間(金曜6校時)の有効活用と充実
- ・ いじめ防止のための教員研修(1回/学期)
- ・ 優れた地域人材や環境を生かした郷土学習の充実

【成果と課題】

- 挨拶に関する学校評価の児童アンケートでは、95.6%の児童が肯定的な回答を寄せ、昨年度(94.7%)より一層自己評価が高まり、挨拶が定着してきている。
- 「八王子市いのちの大切さを考える日」の取組が定着してきた。校長講話や各学級で取り組んだ実績について記録に残し、教員間で共有することで一層成果を上げることができた。
- 学校評価(児童アンケート)の中で、「先生たちはいじめをゆるさない学校づくりに取り組んでいる」という質問に対し、肯定的な回答の割合が、後期には87.4%にまで上昇し、昨年度より上昇した。いじめアンケートの記述内容について丁寧に聞き取り、担任等が対応した結果と思われる。
- 「こころの日」は、児童・保護者の中に定着してきた。テーマに沿った対話を通して、道徳的価値について考える貴重な実践の時間となっている。また、実践の蓄積が進み、記録を見返すことで教員のOJT研修にもつながっている。
- 毎週行う「学校いじめ対策委員会」、いじめ防止のための教員研修を通して、教員の「いじめ防止」に関する感度が高まってきた。児童が、教師やSCに相談しやすい環境が整備された。
- 校内研究授業を通して、特別支援学級との交流が質量ともに充実する学級が見られた。また、休み時間に特別支援学級の教室に遊びに行く児童も増えた。
- 学校運営協議会主催の海洋教育授業を、今年度も引き続き実施することができた。複数の学年において、地域の教育材を活用した授業を新たに展開することができた。
- 「夢大地」については、各学年とも前年度にならって継続、実施できた。学校HPや学校だよりの巻頭言で周知することで、保護者の中での認知度も上がった。肯定的な回答が、93.8%であった。
- 保護者アンケートにおいて、挨拶や礼儀に関する項目で肯定的評価が83.1%と昨年度より上がったものの、児童の自己評価と開きが見られる。地域等でも進んで挨拶ができるよう、指導を継続する。
- 保護者アンケートにおいて、設問6「いじめの未然防止、早期発見・早期対応」について「分からない」という回答が1割ほどであった。未然防止の取組や学校いじめ対策委員会の役割について、ふれあい月間等を中心に保護者にも啓発をしていく必要がある。

(2) 確かな学力の育成

- 生きて働く知識や技能を習得させる。
- 主体的に学び続ける力を身に付けさせる。
- 小中一貫「由井中学校グループ」の学力向上プロジェクトチームにおいて情報共有を綿密にし、共通の取組を計画・実施する。

【主な取組】

- ・ 高学年を中心に教科担任制の一部導入
- ・ 一人一台の学習用端末の積極的活用と指導の充実
- ・ 個別学習支援(朝学習・のびのびタイム)の内容の精選
- ・ 授業の構造化、課題解決学習の設定
- ・ 東京ベーシック・ドリル、八王子ベーシック・ドリルの効果的活用
- ・ 八王子市学力定着度調査(4~6年実施)の分析・共有・指導への活用
- ・ 校内研究の充実による教員の指導力の向上

【成果と課題】

- 一部教科担任制が、高学年を中心に定着し、教員からメリットが多く語られたり、児童からも分かりやすいとの意見が届いたりするようになった。
- 発達段階に応じて、一人一台の学習用端末を授業に日常的に取り入れるようになった。児童の評価では94.8%、保護者アンケートでは91.1%から肯定的回答を得ることができた。
- 校内研究において、「自分のよさに気づき、自分に自信をもって学ぼうとする児童の育成」の研究主題に基づき、年間4本の研究授業を実施できた。教科を絞らずに体育科や社会科、特別の教科・道徳の分科会ごとに意欲的な授業研究を実践できた。
- 朝の「短い時間を活用した教科等指導」導入から2年目を迎え、児童の生活リズムも定着したことで、新出漢字学習や漢字の復習を計画に沿って行うことができた。
- 3・4年生の「のびのびタイム」は、個別の課題に取り組む時間として活用でき、1教室に複数教員が関わることで、児童の学習意欲が向上したり、集中して復習に取り組んだりする姿が見られた。算数科において、つまずきの多い単元を集中して復習することで、苦手な児童の底上げを図れた。
- 1・2年生に習熟度別算数の時間講師を配置し、丁寧に指導することで、「算数が苦手。」という児童を減らすことができた。学校公開にて授業を公開し、事後のアンケートで保護者から「分かりやすく、丁寧な指導」との声をいただくこともできた。
- 第5学年総合的な学習の時間において、単元開発を行うことで、児童が主体的に学ぶ姿が多く見られた。
- 授業の構造化に、意識的に取り組んだ結果、学校評価でも、板書や発問を含め、分かりやすい授業に関する質問項目で、保護者の91.1%、児童の94.8%から肯定的評価を得ることができた。
- 「はちおうじっ子ミニマム」の取組が充分とは言えなかった。満点を取る児童の数が少なく、結果の分析をすると、二極化の傾向が一層強く見られた。
- 小中一貫教育に関して、学力向上部の意見交換が年間3回に留まり、十分とは言えなかった。各校の校内研究会に相互に教員を派遣して、意見交流を行うことを次年度検討していく。
- 朝学習における算数の時間について、プリントやドリルでの復習に加え、一人一台の学習用端末を一層活用し、学力向上を図る必要がある。

(3) 健やかな体と体力・気力の育成

- 運動に親しむ態度を育て、体力増進・健康維持について関心を高める。
- あきらめない根気強さ、最後までやり抜くたくましさを身に付けさせる。
- 安心、安全な生活を送るための知識や技能を定着させる。

【主な取組】

- ・ 体育的行事や体育的活動の充実
(運動会、体力テスト、大縄集会、持久走月間、なわとびカード 等)
- ・ 休み時間の外遊び励行
- ・ 専門家や外部機関との連携による安全教育の充実
(交通安全教室、セーフティ教室、薬物乱用防止教室、自転車安全教室、歩行訓練 等)
- ・ キャリア教育の視点から「夢大地」(自然観察・農業体験等)の取組の充実と継続

【成果と課題】

- 校内研究では体育科の分科会から2回研究授業を実施し、それぞれ違った講師から指導していただくことで、研修を深め、体力向上についての視点を得ることができた。
- 運動会における走競技での得点制や選抜リレー、全校での大玉送りを継続し、児童と保護者に定着させることができ、体育的行事として盛り上げることができた。
- 体育的な活動については、ほぼ計画通り実施できた。「なわとびカード」の内容を一部見直すことで熱心に取り組む児童が増えた。大縄集会への取組に関しては、天候にも恵まれ、活発に運動に取り組む児童が増えた。持久走月間は学級閉鎖の時期と重なり、一部計画の変更と縮小を行った。
- 交通安全教室やセーフティ教室、薬物乱用防止教室、自転車安全教室などにおいて、専門家や外部機関の方にゲストティーチャーとして来校していただくことにより、児童にとって新鮮な学びの場となり、内容の理解や実践につなげようとする意識が高まった。
- 「夢大地」については、各学年とも前年度にならって継続、実施できた。地域と連携した総合的な学習の時間や生活科の授業を実施することで、ゲストティーチャーの生き方や地域への想いを学ぶ機会とすることができた。
- 豊年太鼓や箏体験授業など特色ある活動を継続することができた。
- 強い気力を養うためにキャリアパスポートの活用を計画通り実施することができた。保護者への啓発も進み、99.1%の保護者から肯定的回答を得ることができた。
- 各学年の体育科における優れた実践を、学年の系統性を充分考慮していくことで、体力向上をより効果的に図ることも期待できるため、授業実践を一層進める必要がある。
- 夏に熱中症指数が高く、体育や休み時間の外遊びに制約がかかる日が多く見られた。体育館の空調設備を効果的に活用して、児童の体を動かす時間や機会を確保していく必要がある。
- 体力テストの種目と関連のある運動や遊びを、日常的に行えるように工夫することで、結果の向上や運動の日常化につなげていきたい。

(4) 保護者・地域・近隣学校との連携のもとに再び開かれた学校づくり

- 保護者との連携を密にし、教育の相乗効果を図る。
- 学校の説明責任を果たし、情報の公開や積極的な発信に努める。
- 学校運営協議会の協力のもと、地域と学校の連携・協働を進める。
- 小中連携を強化、活性化し、学びや生活指導の連続性を図る。

【主な取組】

- ・ 学習ボランティア等で保護者が来校できる機会を意図的に、増やす。PTA 関連で来校した際等、教室の様子を見たり、担任とコミュニケーションを図ったり、遠慮なく行うよう呼び掛ける。
- ・ 学校だよりや Home&School、学校日記（ホームページ）による情報発信
- ・ 学校評価アンケートを活用した教育活動の改善
- ・ 小中一貫グループ校（由井中学校、由井第二小学校、由井第三小学校、片倉台小学校）で連携し、「9年間で育てたい児童・生徒像」を定め、連携を深める。

【成果と課題】

- これまでの学校行事に加え、「おやじの会」が主催するイベントを年3回実施、学校運営協議会とPTA共催の行事を2回実施する等、保護者・地域の方が来校する機会を増やすことができた。
- 今年度初めて、学校運営協議会主催の茶話会を実施し、フリースクールの運営者やそこへ通っている児童の保護者が参加した。今後参加者を増やし、保護者同士の交流の場となるように考えている。
- 学校公開や授業での見守りボランティア、図書ボランティア等で、保護者の来校する機会が大きく増えた。素顔で、対面で直接保護者と学校側が話す機会が増え、コミュニケーションを深めることができた。
- 学校だよりを Home&School での配信に完全移行し、保護者にも浸透した。保護者からの意見も反映し、配信の仕方を工夫できた。学校から情報発信するツールとして充分活用できている。
- ホームページの「学校日記」は、昨年度と同じ程度の頻度で、学校生活の様子を発信できた。
- 小中一貫教育の取り組みを通して、「はちおうじっ子サミット」の進め方が定着してきた。オンライン会議等に児童が参加することで、児童会を中心として5・6年生の意識を向上させることができた。
- 学校評価の回答期限を延長するなどしたが、アンケートの回収率が昨年度より低下し、40.2%であった。保護者への周知を今年度よりさらに早めたり、通知の回数を増やして複数回協力を求めたりすることで、改善を図りたい。
- ホームページの「学校日記」に関して、学年により更新頻度に差が出てしまっている。昨年度より更新回数自体は改善したが、差が少なくなるようにしていきたい。